

# 縮退社会における 空間と価値 の再創造

少子高齢化と人口減少がすすむ日本は縮退期にあります。いっぽう地球規模で深刻化する気候変動を緩和するための、経済的脱成長の考え方が注目されています。いずれも、かならずしも、明るい現状と将来をあらわすイメージではなさそうです。そのような時代状況の中で、“金の力に支配されず（漱石）”、充実した、質の高い生活（QOL）をおくるには、どうしたらいいのでしょうか？ 人間は、“単なる必要を超えて何かを作り出そうとする精神（スタインベック）”です。縮退社会における QOL の追求は、現代の重要な人間的課題です。

モノやサービスを追加で保有または消費することによって得られる満足度を“限界効用”といい、ここに価値を見出す主張があります。いっぽう人間の労働が価値の源泉であり、売り買いされるモノやサービスの価値は労働が決定すると考える立場もあります。生活の質を高めるには、抽象的で交換の幅広さだけに注目する価値（交換価値）から、物の独自の使い道に注目した価値（使用価値）に移行すべきことが主張されてもいます。いずれにせよ、QOL とさまざまな価値が不可分であることは自明です。また価値発生の要件が、人と人との出会いと交流であることも明らかです。

今回のシリーズでは、縮退する日本社会における、関係性と価値、価値の創造・喪失と再創造、そのためのモノづくりとコミュニティ形成について、考えてみたいと思います。そのために、ユニークなりノベーション、用の美と限界芸術、および社会的に孤立している人の関係や事象をまちにひらき支える活動にくわしい方々のお話しをお聴きし、価値というものについて議論したいと思います。みなさま、ぜひご参加ください。

景観研究センター所長 山下三平

テーマ：縮退社会における空間と価値の再創造

■ 6月6日（金）18:00－19:30

自律的リノベーションとコミュニティの蘇生

吉浦 隆紀（有限会社 吉浦ビル 代表取締役）

<https://ksu-keikanseminar2025f1.peatix.com>

■ 6月20日（金）18:00－19:30

『用と美の風景』と限界風景論

神山 藍（東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科 准教授）

<https://ksu-keikanseminar2025f2.peatix.com>

■ 7月4日（金）18:00－19:30

子どもを支えるまちづくり

田北 雅裕（九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授）

<https://ksu-keikanseminar2025f3.peatix.com>

会場：対面 九州産業大学23号館4階 景観研究センター 景観ライブラリー  
Online Zoom ミーティング ＊各回とも Peatix にてお申し込みください

参加費：無料



photo by Takanori YOSHIURA



photo by Ran KAMIYAMA



九州産業大学景観研究センター  
景観セミナー／レクチャーシリーズ  
2025前期